

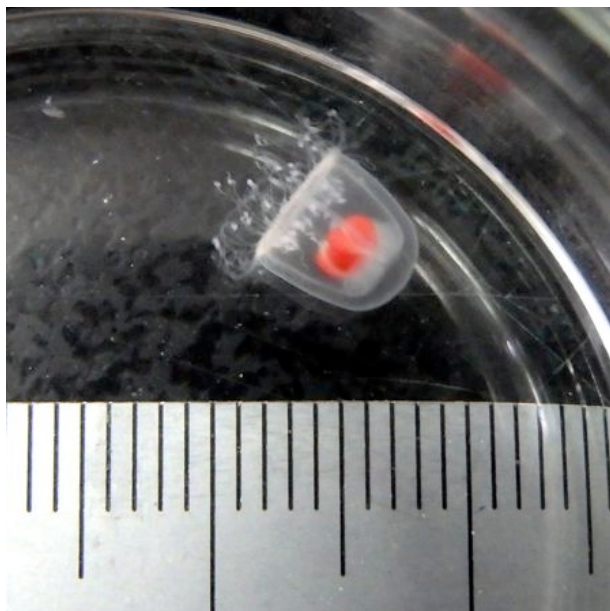
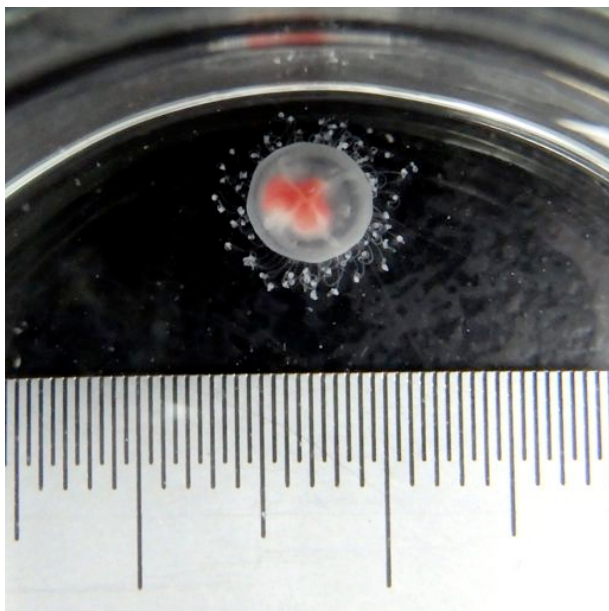
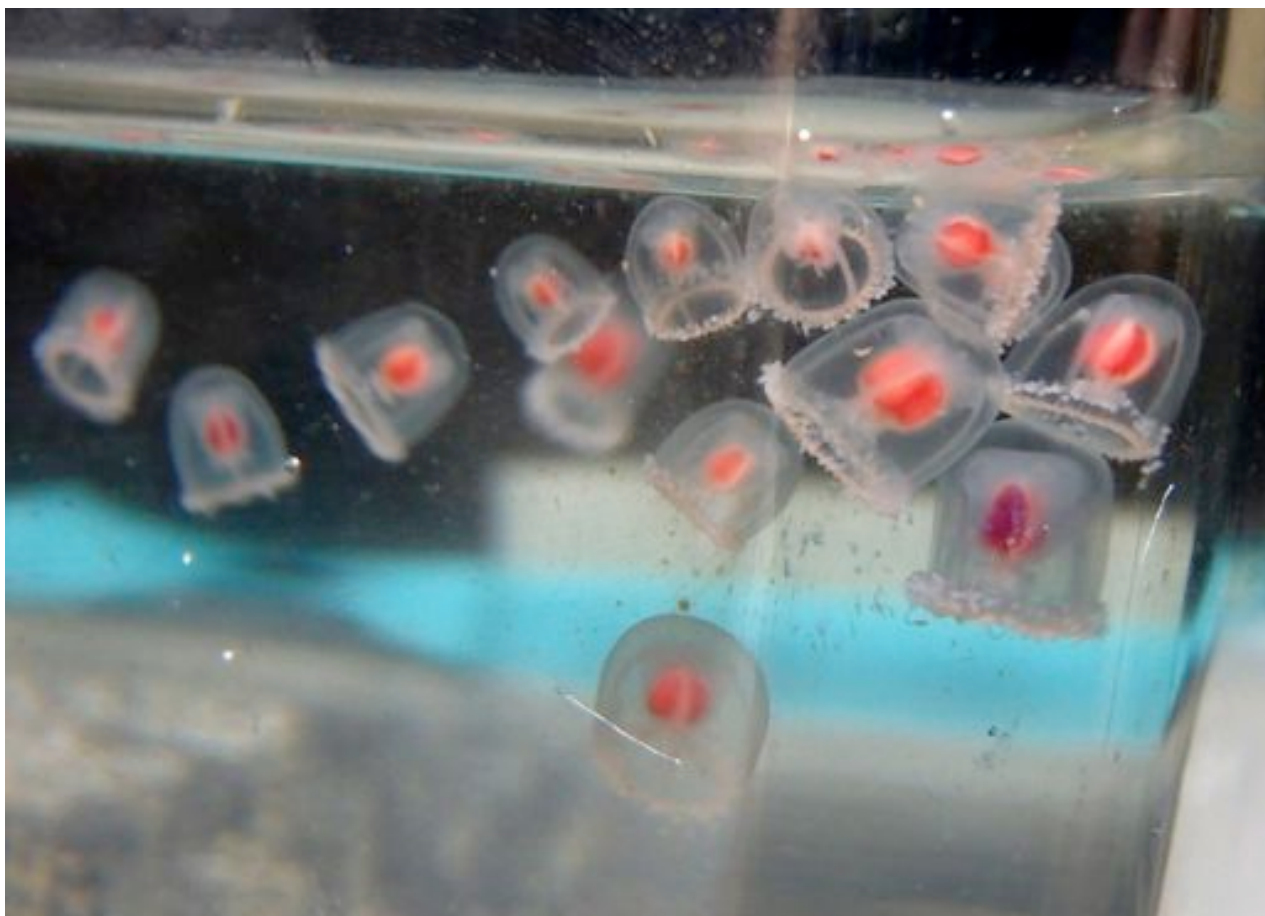
いしかり砂丘の風資料館紀要

第7巻

BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM

Volume 7

March, 2017



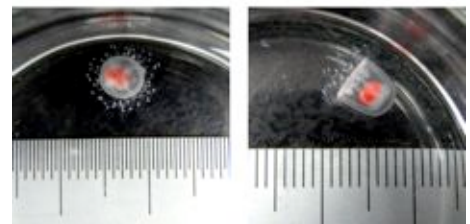
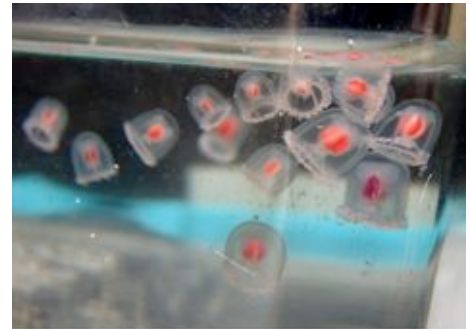
口絵1. 石狩浜で大量に採集されたベニクラゲ（2016年7月26日）.

口絵1. 2016年に石狩浜で採集されたベニクラゲ
***Turritopsis* sp. collected on Ishikari Beach,**
Hokkaido, Japan in 2016.

2016年7月26日、北海道石狩浜で大量のベニクラゲ*Turritopsis* sp.が海中を遊泳しているのが確認された。ベニクラゲは刺胞動物門ヒドロ虫綱に属するクラゲで、傘はベル形で直径5 mm程度、口柄の中心部が紅色を呈している。北日本で夏から秋にかけて見られる（峯水ほか，2015）が、石狩浜で確認されたのは初めてと思われる。汀線間際的水中で大量に遊泳していたところを金魚用の網で採集した。

ベニクラゲは“不老不死”のクラゲとして知られている（Kubota, 2011など）。成熟した有性世代のクラゲが物理的刺激などのストレスを受けると、無性世代のポリプへと戻ることができる。

（志賀健司）



引用文献

Kubota, S., 2011. Repeating rejuvenation in *Turritopsis*, an immortal hydrozoan (Cnidaria, Hydrozoa). *Biogeography*, 13: 101-103.

峯水亮・久保田信・平野弥生・Dhugal Lindsay, 2015. 日本クラゲ大図鑑. 平凡社.



口絵2. 石狩湾新港で見られたニシン群来（2017年3月12日，撮影：「IBCファンのBUN」さん）。

口絵2. 2017年春に石狩湾新港で見られたニシン群来

Mass spawning of herring seen in Ishikari Bay New Port, Hokkaido, Japan in the spring of 2017.

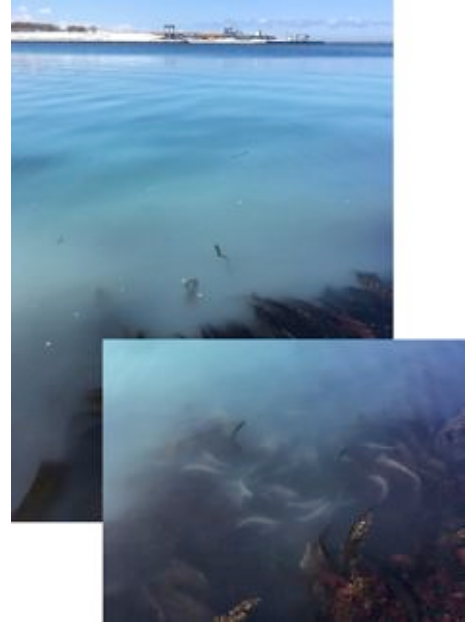
ニシン *Clupea pallasii* は沿岸に繁茂する海草のスガモ、海藻のホンダワラ類などに卵を産み付ける。北海道日本海側で晩冬から春にかけて、ニシンの大群が産卵のために沿岸に押し寄せる現象、特にその際にオスの精子で海水が白く濁る状況を、群来と呼ぶ。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて最盛期を迎えた北海道のニシン漁だが、その後、資源量は急激に減少し、北海道では1950年代にほぼ消滅した。群来も、1954年に余市町から小樽市にかけて見られたのが最後だった（田中，2003）。

しかし1999年、45年ぶりの群来が、留萌市で確認された。その後、見られる頻度は増加し、2009年以降は、石狩湾周辺で毎年、数回の群来の発生が確認されている（星野，2015）。

2017年3月12日午前、石狩湾奥部の石狩湾新港内で群来が確認された。岸壁近くにニシンの大群が押し寄せて海藻に産卵し、その後、海水が白濁した（写真、撮影：「IBCファンのBUN」さん）。釣人などが集まり、大量に採集していた。

（志賀健司）



引用文献

星野昇，2015. ニシンの「群来」について，石狩湾系ニシン情報参考資料1．北海道立総合研究機構中央水産試験場。

田中伸幸，2003. ニシン，漁業生物図鑑 新北のさかなたち（上田吉幸ほか編）．北海道新聞社。

いしかり砂丘の風資料館 紀要

第7巻

目次

論 説

- 志賀 健司：2016年の北海道石狩湾沿岸におけるコウイカ殻の漂着 ……1
- 荒山 千恵：石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（3） ……7
- 齊藤 快・福士 愛梨・土屋 翔太・高橋 亮介・鳥本 愛音・松橋 廉・若月 聡・渡部 友子：
石狩砂丘におけるクロコウスバカゲロウ（アミメカゲロウ目：
ウスバカゲロウ科）幼虫の巣穴づくり行動Ⅱ
—高温下ではどのような場所を選択して巣穴を作るか— ……19

報 告

- 木戸 奈央子：旧浜益村澤谷家文書の酒税関係資料について ……31

資 料

- 荒山 千恵：石狩紅葉山49号遺跡の丸木舟と櫓 ……47

口 絵

- 2016年に石狩浜で採集されたベニクラゲ ……i
- 2017年春に石狩湾新港で見られたニシン群来 ……iii

